

## 「文京区子ども読書活動推進計画」(素案) のパブリックコメント実施結果

## 1 実施概要

募集期間	令和3年6月17日～7月16日
提出者数 / 件数	4人 / 6件
提出方法	電子メール2人、持参2人

## 2 ご意見に対する区の考え方

No	いただいた意見(要旨)	件数	区の考え方
1	洋書の絵本を増やしてほしいです。英語教育に小学生も必要とされており、今後ますます必要になると思います。	2	区立図書館では、水道端図書館を中心に洋書絵本を蔵書しております。今後も、外国の絵本や日本人作家の翻訳絵本など、幅広く収集してまいります。
2	ネット投稿サイトなどで作品を読んでも当事者にとって「本」を読んだとは意識しづらいと思われることや、そもそも媒体が冊数で数えられる書籍ではないことから、子どもたちへアンケート調査を行う際には図書の形態にとらわれない読書体験についても尋ねる必要がある。特に中学生以上ではスマートフォンを持つ子どもも多く、インターネット上での読書が広まっていることは「1か月に読んだ平均冊数」が大きく減少している一因ではないだろうか。インターネットを利用した読書の動向を把握することは今後の図書館のあり方を考える上でも重要だと思われる。	1	素案には掲載しておりませんが、このたびのアンケートで、「この1か月のあいだに本を読んだ」と回答した児童・生徒のうち、スマートフォンやタブレットを使って読んだものがある子どもが、小学3年生で24.2%、小学5年生で24.1%、中学2年生で29.1%となっております。このような状況も踏まえ、電子書籍等、図書館サービスの充実や学校図書館との連携などに取り組み、子どもたちの読書活動を推進してまいります。

3	<p>事業番号7「YAを対象としたサービスの充実」・14「電子書籍の活用」に関連するが、インターネット上で利用可能な優れた作品を子どもたちに紹介する取り組みを行ってほしい。インターネット上のサイトを利用するのであれば、図書館が提供する従来の図書・電子書籍のように在庫冊数やライセンス数の制約がないし、貸し出し手続きを行ったり返却期限までに読み終えなければならないなどの不自由さもない。毎日無数に出版されている書籍の中から図書館が選書によって子どもたちに読書のガイドラインを与えるように、無数に存在するインターネット上の作品から子どもたちの楽しめるものを選んで紹介するのも図書館の役割だと思う。</p>	1	<p>紙の本だけでなく、電子書籍など、読書の方法が多様になる中、インターネット上でも様々な作品を楽しむことは認識しておりますが、これらは図書館資料としての収集対象とはしておりません。そのため、現状では、その中からおすすめの資料を選定する考えはございませんが、図書館ホームページのYA（ヤングアダルト）向けページでは、リンク集の中で、青空文庫（著作権が消滅するなどした作品を集めたサイト）の紹介をしております。</p>
4	<p>公共図書館や学校図書館に「りんごの棚」を設置してはいかがでしょうか。アクセシブルな図書は多くの本に紛れてしまうとわかりにくく、一か所に集めると情報へのアクセスが容易になります。アクセシビリティ図書の普及活動をしている「りんごプロジェクト」がお手伝いします。</p>	1	<p>真砂中央図書館では、ご主旨のような「読書支援コーナー」を設け、デイジー（デジタル録音した音訳資料）やLLブック（イラストや写真を使い、やさしい言葉で書かれた本）、点字図書などを紹介しております。今後も、資料の充実とコーナーの周知に努めてまいります。</p> <p>また、学校図書館においても、アクセシブルな図書や読書補助具などの整備に取り組んでまいります。</p>
5	<p>区立図書館の学年別おすすめリストですが、学習障害や知的障害などをもつ子どもにとっては、その学年の本を手にとって読みづらく排除されている気持ちになるので、学年別ではなく、ジャンル別などで分けて、本の情報欄におすすめする参考学年として表記してはいかがでしょうか。読書に対する理解度を学年で縛ら</p>	1	<p>小学生向けのブックリストについては、本を選ぶ際の目安としていただくため、学年ごとに分けて本を紹介しておりますが、子どもたちが、自分たちに合ったお気に入りの本と出会う機会を広げるため、学年にこだわらず選んでほしい旨のメッセージも添えているところです。</p>

	ないでほしいです。		ご意見を参考に、リストの構成や表記の仕方について、より良いものとなるよう、検討してまいります。
--	-----------	--	---